

AsiaWave

 vol.171

2
ミャンマー写真館
桂川唯香
壺の町
「トウンテー」

5 特集
あじあ航海記
パンスター
・ハニー
日本海クルーズ
金丸知好

10
エッセイ
フィリピンとタイの食にまつわるエトセトラ
田村怜奈

12
Life&Culture
ラフマン・愛
テロから6年
中国タクラ
バングラの市場探索
亜洲奈みつほ
映画『シリアの花嫁』
『宋家の三姉妹』
中川昌俊
インド・ムンバイで
同時テロが発生



(桂川唯香撮影)

ヤンゴンのフェリー乗り場

桂川唯香

帰りのフェリーでデッキに上がると、ヤンゴンの乗り場はやっばり人で溢れていた。それぞれが荷物を持ち、きつと何かの目的を持ち、ただじっと到着を待っているのだ。私たちがのんびり降りたら、この人たちがのんびり乗り込み、再びフェリーは対岸へ行くという繰り返し。日々どのくらいの人が行き来しているのだろうか。

デッキは夕方風の心が心地よく、たった10分ではあつという間で物足りない。もつとヤンゴン川の上になりたい。そんな私にとっては刺激的なこの時間も、人々には無くてはならない生活の一部であつて、単なる日常なのだ。楽しいものでも心地よいものでもなく、対岸へ行くための手段。だから今日も、浮かれることなくじつと待っているのだと思う。

桂川唯香の
ミャンマー写真館

壺の町
「トウンテター」



フェリーを待っている人々の様子



フェリーの中の様子



フェリーの中で話しかけられたおじさんと孫



のんびり客を待つピックアップカーのドライバー達



人も荷物もまだまだ乗せます



赤茶色の砂埃の中、サイカーに乗って町をまわった



壺を焼く釜。撮った後に女性から「マネー」と言われた……



パパもママも壺を作っているよ



町の人みんなが壺のお仕事をしている

ヤンゴン近郊の町「トゥンテー」へ行った。まずはヤンゴン川の対岸まで10分だけフェリーに乗る。荷物をいっぱい持った現地の人で溢れた船内。立っていれば1ドルだけれど、隅に積まれている椅子を出して座ると席代が5チャットかかるといふシステム。10分なら立っていこう。対岸に着いたらピックアップカーに乗る。ギユウギユウに押し込まれて、もう乗れないよと思っ
てからさらに10人は乗ってやっと出発。押されて揺られて苦しい1時間。やっと到着したトゥン
テーは、どこもかしこも壺だらけで町そのものが赤茶色に染まっていた。一つ一つじっくり
見ると美しい模様が入っていてなかなか良い出来栄え。でも重いしかさばるし買って帰るのは
ちよつと……。別に欲しいわけじゃない。並んでいる壺を眺めながら紅茶を飲んでいるのだけ
で充分だ。壺だらけ、壺しかない、誰もが粘土をこね、ロクロをまわし、模様をつけて焼いている。
そんなトゥンテーの町そのものが正に名所といえるのではないだろうか。



町のあちこちに壺が並んでいる



危なっかしくも上手に運んでいる



じっくり見ると美しい模様の壺たち



サイカーのゆっくりとしたスピードがグー



タウンターのメインストリート



町そのものが赤茶色に見える

桂川唯香 (かつらがわ・ゆか)

1973年4月24日、静岡県富士郡芝川町生まれ。東洋大学工学部卒。2001年11月からラオスを中心に近隣アジアへ旅をしながら一年間を過ごす。現在はその時の経験を執筆しつつ、時々ラオスやタイへ行き、ローカルバスでいろいろな町を移動しては飲酒している。



あじあ
航海記

パンスター・ハニー 日本海クルーズ 金丸知好

6月16日、釜山〜金沢航路が開設された。週1往復しかないが、日本海側では唯一の日韓航路の誕生だ。それに就航しているのが、韓国初の客船として話題になったパンスター・ハニーである。その初来日航海「韓国3日間クルーズ」(大阪〜釜山・5月)の模様はアジアウエーブ7月号でも紹介した。

金沢航路を運航しているのは、東日本フェリー。そもそもパンスター・ハニーは東日本フェリーの青森〜函館航路に就航していた「ほるす」を韓国船社のパンスターラインがクルーズ仕様に変更したもの。4月からは釜山発着で韓国の南海岸や西日本を中心とした2泊3日か3泊4日のクルーズを行っているが、東日本フェリーはパンスターラインからパンスター・ハニーを週1往復だけタイムチャーターして金沢航路を運航し始めた。

梅雨明けが近い7月のある日。僕はパンスター・ハニーに再会するため、金沢にやってきた。ターミナルとして使用されている「みなと会館」も看板にはハンゲル文字が添えられ、待合室には大勢の韓国人旅行者がいた。

チケット発売所でパスポートを提示し、乗船券を受け取る。ちなみに僕は韓国3日間クルーズのときと同じく最も安いスタンダードルーム(8人部屋)を選んだ。片道1万6000円。カウンターにはとても日本語を流暢に話す女性の韓国人スタッフ。「きょうの客さんは全部で60人

くらい。そのうち日本人は3名ですね」とのこと。

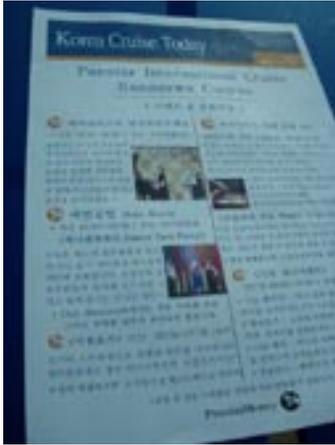
パンスター・ハニーの舷門には懐かしい顔があった。船首カフェ「パラダイス」のあごひげマスターである。彼と眼があうと、僕は開口一番、「DO YOU REMEMBER ME?」

マスターもビックリした様子で「OH!」やはり初来日のクルーズで3日間乗りっぱなしだった数少ない異邦人(=日本人)のパスセンジャーだった僕は、彼にも忘れがたい印象を残していたようである。

「またパラダイスに行きますよ」と言うと、マスターはにっこりしてうなずいた。

階段を上がり、エントランスへ。ここで僕は2ヶ月前にはなかった歓迎に出会うこととなる。韓国人スタッフとフィリピン人スタッフが花道をつくり、サックス生演奏そしてピエロがお出迎え。トロピカルジュースやワインなどのフリードリンクにちよつとしたお菓子も。エントランスは明らかにフェリーのそれではなく、クルーズ乗船時に行われる歓迎スタイルである。

そこにまた懐かしい顔が。元女子柔道の韓国ユニバーシアード代表という華やかな経歴を持つカジノのディーラー。彼女も僕のことを覚えていてくれて「WELCOME TO PANSTAR HONEY」と驚きの混じった、それでも飛び切りの明るい声で迎えてくれたので



韓国人女性スタッフから手渡された船内新聞「Korea Cruise Today」。裏面は船内スケジュール表。すべてハングル文字だが、日本人乗客にはこれがかなり簡略化された日本語案内表が手渡される。



サーブされてきたカプチーノを見て、思わず微笑んでしまった。

ある。さらに「今回はおひとりですか？」と実にキレイな日本語で尋ねてくるのはレストランスタッフの女性。3日間クルーズのときとはかなりメンバ―が入れ替わっているが、それでも僕のことを覚えていてくれるスタッフは何人もいて、まるで我が家に帰ってきたような気分になった。

5月のときはフェリーサービスだったパンスター・ハニーが、金沢航路ではクルーズサービスを実施している。フェリーサービスでは、この船の魅力の半分くらいしか味わえなかったが（それでも大満足でしたが）、今回はハニーの魅力全開・本気モードでさらに楽しめそうである。

15時30分、パンスター・ハニーはエンジン音と小刻みな振動とともに出港態勢に入る。パンスター・ハニーは金沢港を出ると、海岸線に沿うように左に舵を取る。ここで、船内放送が。16時よりムグンファレストランでコンサートが行なわれます。

コンサートが終わわり、僕はあごひげマスターのいるパラダイス・カフェへ。16時30分から1時間はマスターが作るバリエーションのひとつである。僕はカプチーノ（6000ウォン）を注文。



後部デッキに出て、ビックリ！ジャグジーに水が入っている。しかもルーフ付き。

釜山に向かう航路では、眼前に大海原が広がる船首のガラス越しに西日が差し込む。それがなんともトロピカルなムードをかもし出す。ここはその名の通り「パラダイス」なのであった。

夕食後、クルーズのメイン・イベント「ハニー・ガラ・パーティー」がクラブ・マスカレードで行われる。僕は唯一のルームメイトEさんと一緒に出かける。Eさんは関西の有名大学の学生だが、いまは休学してソウルにある大学に留学している。今回は夏休みを利用して大阪の実家が帰省。そして金沢におばあちゃんの家があるというので、こちらに寄ってパンスター・ハニーに乗って韓国に戻るといふ。



17時30分からはソムリエワイン講座がパラダイスにて開催。女性スタッフによるワインセミナーに、熱心に聞き入る韓国人パッセンジャー。

ムグンファ・レストランではビュッフェスタイルの夕食。8000ウォン。日本円だと850円。

この日は和食スタイルのビュッフェ。お寿司もあるし、蕎麦もある。焼き鳥や春巻きももらってきました。金沢航路ということもあって北陸の海の幸カニやエビもあるのがありがたい！これで850円食べ放題だなんて、とても良心的だと思う。



5月の韓国クルーズ3日間では利用されることなかったクラブ・マスカレード。青函航路「ほるす」時代はカーデックだったのだろう。パンスター・ハニーでは、この広大なスペースをイベントホールに変えてしまった。素晴らしい発想の転換である。乗客60人のほとんどがイベントにやってくる。

司会者が現れる。彼はパンスター・ハニーのクルーである。韓国語のみのスピーチ。僕には「拍手お願いします」くらいしかわからないが、韓国語を学んでもう4年になるというEさんは司会者の間いかけに「ネー（はい）」とこたえたり、笑ったりと、さすがである。

このあとはクルーによるサックスとトランペット演奏にマジックショー、そして乗客も参加してのイベントと続く。いよいよキャプテンが登場！ 5月クルーズのときと同じキャプテンだ。ブリッジツアーのときは作業着で、ざっくばらんに僕たちの質問に日本語で答えていて、とても気さくな雰囲気のカプテンだと思ったが、ユニフォームに身を包むとやはり貫禄がある。左にはメガネをかけた女性三等航海士の姿も。彼女も5月のブリッジツアーでお会いしている。彼女も作業着のときとは違って、とても凛々しい。

クルーが勢ぞろいし、紹介が行われる。厨房のスタッフ。カジノやカフェなどのスタッフ。レストランスタッフ。インフォメーションカウンターのスタッフ。そ



フィリピン人スタッフはダンスショーも披露してくれた。こうした縁の下の力持ちにもスポットライトが当たるとはそれだけでも非常にいいイベントだと思った。



すっかり日が暮れた後部デッキへ。イエスタディなどサックス演奏あり。ピエロが夕涼みのお客さんのあいだをまわる。演奏に感激してチップをピエロの帽子に入れるオジサンも。



クルー全員で敬礼！カッコイイ(∧_∧)v



ガラ・パーティーの乗客参加イベント。乗船者の男性は奥さんに向かって、ピエロが作った風船の花束を手渡し「愛しています！」と叫んでいるところ。見ているほうが照れてしまうが、場内は大喜び。



金沢航路ではカジノも18:00~26:00オープン!
5月の韓国クルーズ3日間ではフェリーサービスだったため
出番がなかった元・柔道のユニバーシアード韓国代表の女性
ディーラーも今回はそのプロの手さばきを見せてくれた。



朝 7:00 からエントランスホールでは女性スタッフが講師
を勤めるヨガが行われていた



そろそろ韓国が見えるんじゃないかと思い、船首カフェ・パ
ラダイスの真上にあるデッキ・サンライズに。5月の韓国3
日間クルーズのときにはなかった望遠鏡が設置されていた。
NIKON 製。無料でいくらでも楽しめるように改造されていた。

「韓国の人にとって金沢はまだ未知
度の高い観光地ではありませんから」
と佐賀留学の女性スタッフ。
それに6月という時期が日本にとつて
も韓国にとつても旅客があまり動かない
時期だったことも乗客数低迷の一因だっ
たと彼女は思っている。また、日本人乗
客がEさんや僕のように地元・金沢の人
ではないことが多いとかで、やはり金沢
の人にもっと利用してもらわないと、と
いうことである。

ただ、今回のクルーズのように韓国か
らのツアーが2団体利用し、立山黒部ア

してベッドメイクや清掃など、楽しいク
ルーズを支えるフィリピン人スタッフ。
続いて女性クルーによる合唱。そして
ダンスショウ。実に素晴らしいレベル
だ。そういえばインフォメーションカ
ウンターでもレストランでも「今夜のイ
ベントは必ず見に来て下さいね」と何度
も言われたものだが、なるほど、彼女た
ちの晴れ舞台だったのだ。仕事をしなが
ら、忙しい合間を縫ってショウの練習も
しているんだなあ。尊敬の念を覚えます。
ダンスが終わるとクルー全員で敬礼!
そして各テーブルに女性クルーがワイン
を注ぎに。

Eさんは「乗船コストに比べるとあまり
にも過剰なサービスですね」といいな
がらも「自分は船に乗るのは2回しか
ないですけど、船旅っていいですね」と
少し感極まっていた。
興奮冷めやらぬ僕とEさんは船首のカ
フェ「パラダイス」へ。アサヒのドラ
フト生ビールを注文。免税になっている
ので3500ウォン+サービスチャージ
350ウォン。日本円にすると405円。
パラダイスには日本語を話せる女性ス
タッフがいる。彼女は佐賀に留学して日
本語を勉強していたとか。
「がばい、すこか」
などと佐賀の言葉がたまに出てくるの
がオモシロイ。

と僕が言うと
「でも、この仕事はとても面白いので
全然大丈夫です」
と笑顔で答える彼女。パンスター・ハ
ニーのクルーズは高いプロ意識をもった
スタッフの力で運営されているのだ。
それにしてもこんな素晴らしいサービ
スが行われている金沢航路の集客があま
り延びていない。7月4日の読売新聞に
は「釜山フェリー低迷第3便乗客1けた」
というタイトルで以下のような記事が掲
載されていた。

湾活用推進室長が明らかにした。
県などによると、6月17日に到着した
第1便の乗客は、定員514人に対し98
人で、翌18日の金沢港発の便は117人
だった。しかし、6月24日に金沢港に着
いた第2便の乗客は27人、金沢港発の便
は23人だった。

フェリーを運航する東日本フェリー
は、一便平均300人を目標に掲げてい
る。福田室長は「県としても危機感を持
っている。船会社に営業を任せるのでは
なく、支援したい」とし、韓国に修学旅
行をする7つの県立高校にフェリーの利
用を呼び掛けるほか、フェリーを利用し
た観光の商品の企画を旅行会社に依頼す
るといふ。

この記事を読んでいた僕は、金沢港で
きよの乗客は60人ちよつと聞いたと
き「今回はかなり多いなあ」と思ったく
らいだ。

いよいよ釜山港。船内コンビニの店員さんが「きょうは米軍の艦船が来ているんですよ」と教えてくれた。



ルペンルートが韓国人観光客のあいだでも人気になりつつあるようで、今後の伸びに期待できる要素もある。彼女たち女性スタッフも金沢には1泊2日の寄港なので、空き時間を利用して金沢観光に出かけて、この町が好きになっていくとか。兼六園や武家屋敷などは韓国人にとって日本の情緒を感じられる場所でお気に入りだという。

金沢航路、もっとお客さんが増えるといいね。そんな話をしながらパラダイスの夜は更けていく。

ルームメイトのEさんと夜中の1時まで話をして、それからベッドにもぐりこ

んだのだが、6時30分には眼がさめた。朝食後、デッキに出てみる。青い空

そして紺碧の大海原が広がる。金沢を出てから、陸地は全く見えない。イベント三昧だった初日とはうって変わって、2日目は釜山入港までのんびりと船内生活を楽しむ。

13時30分、パンスター・ハニーは釜山に到着。金沢から日本海を突っ切る22時間のクルーズはこれで幕。荷物をまとめてエントランスに行こうとすると、韓国人女性スタッフが僕たちを見つけて写真をくれた。それは昨夜のガラ・パーティーでビデオと記念撮影したものだった。

いよいよ下船。すっかり顔見知りになったパンスター・ハニーのスタッフたちが

「また乗って下さいね」

「今度はもっと長いクルーズでお会いしましょう」

と声をかけてくれる。

そして舷門には、パラダイスのあこびげマスターがいつもの笑顔で立って、僕にこう、声をかけた。

「SEE YOU AGAIN!」

この数時間後、パンスター・ハニーは釜山→境港→舞鶴→釜山の3泊4日クルーズのため150人の乗客を乗せて再び船出していった。

それから3ヶ月が経過した10月下旬。インターネットのニュースを見ていた僕は、ある記事に目が釘付けとなった。

釜山→釜山フェリー休止 就航から4ヶ月余 燃料高で今月末

東日本フェリー（函館市）は28日、釜山→釜山（韓国）間で週一便運航する国際定期フェリーを、今月末で休止する方針を決めた。燃油高騰などで経営環境が急激に悪化したためとみられる。釜山と釜山を結ぶ初のフェリーとして期待されていたものの、就航からわずか四ヶ月余で休止を迫られる結果となった。

28日に釜山港に入港し、29日に出港する便が最終便となる。同社は貨物の見込みが立った時点で再開を目指す意向だが、誘致に動いた石川県や釜山港振興協会など港湾関係者への波紋は大きいとみられる。

釜山→釜山航路は、6月17日に釜山港に初就航。旅客については就航三便目が一ケタの人数であったが、今月14日の釜山港入港便は222人、15日の出港便は206人を数え、先週末までの計18往復で約3000人の旅客となり、徐々に誘客効果が出て来ている。

しかし、東日本フェリーは燃油高騰の影響などから、関係者によると会社全体で赤字が今期50億円近くに膨らむ見通しとなり、北海道と青森県を結ぶ三航路（函館→青森、函館→大間、室蘭→青森）のフェリー運航事業について11月末での撤退を表明。見直しの一環として、貨物の集荷も伸び悩む釜山→釜山が一時休止となった。

（北国新聞ホームページ 10月28日より）

明日（10月29日）がいきなり最終便かよっ！ 唐突な決定に、そう叫びたくな

った。

2日後、パラダイス気分な日本海航路は、うたかたのように消え去ってしまった。再開の可能性もなくもないというが、見直しは厳しい。すっかり外気が冷たくなってしまったいま、僕は思い浮かべることがある。日本海で流れたパンスター・ハニーの至福の時間を。パラダイスでマスターのいれてくれたカプチーノを真っ青な海を見ながら味わうのは、こんどはいつになるのだろうか。

金丸知好（カナマルトモヨシ）

富山県生まれ。早稲田大学在学中に神戸から上海へ「鑑真号」で渡って以来、船旅のオモシロさにはまり、日本国内や韓国・中国・台湾・ロシアなど外国行きのフェリーに乗船すること多数。稚内からフェリーで訪問したサハリンの見聞録「北緯47度の忘れ物」で徳間文庫10周年記念ノンフィクション大賞を獲得し、以後、船旅をベースにした「航海作家」活動に入る。クルーズ客船で五大陸と五つの海洋をめぐる経験を生かし、雑誌「クルーズ」（海事プレス社）で「世界の港町、歴史海道をゆく」を連載。また、単行本「アジアフェリーで出かけよう！」（出版文化社）、「フェリーでGO! オモシロ船旅～日中韓露台」（ユビキタ・スタジオ）の執筆、船旅専門ブログ「航海作家カナマルトモヨシの船旅人生」運営など、船旅に対して情熱的にオモシロ活動中！

船旅専門ブログ「航海作家カナマルトモヨシの船旅人生」
http://rohnin1966.at.webry.info/

フィリピンとタイの食に まつわるエトセトラ

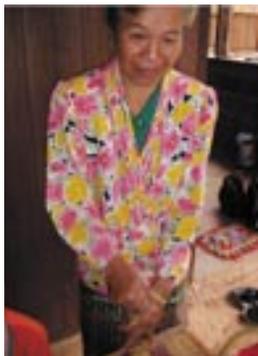
田村 怜奈

どーも。昨年のこの時期と今年の夏に

記事を書かせていただいた田村怜奈です。まだ一読させていただいた田村怜奈です。うぞ、おもしろいので読んでください。ありがとございます。今回はぐっとポツプに海外に多くの友達を持つ私が特にひいきするフィリピンとタイの、食べ物にまつわるお話をいくつかご紹介したいと思います。では、どうぞ。

☆タイのおばあちゃんの歯磨き

タイではおばあちゃんがスパイスをミックスしてつぶして、なんと、それで歯磨きしていた。まさしく昔、人が塩で歯磨きしていたように。辛そう。見ていただけで唾が出てくる。「おばあちゃん辛くないの?!」とビックリする私をよそ目に、おばあちゃんは笑顔で歯磨きを続



歯磨き粉準備中。細い木の筒に数種類のスパイスを入れ、棒でつぶして混ぜて使う

けた。

☆想定外のマンゴー

私はマンゴーが好きでしかたない。南国フィリピンに行ったときには、毎日のようにマンゴーを食し、マンゴージュースを飲んでいた。そしてスーパーに行けば、日本と違って種類も豊富で安いマンゴー製品でかごをいっぱいにした。他の買い物客からは、動物園に来たばかりのパンダみたいにジロジロ見られ、映画監督志望の友達に「狂って買い込むこの様子をビデオに撮りたい!」と言われたほどマンゴーが大好きなのだ。いや、マンゴーが私のことを好きすぎて、私は断れないだけ。とにかく、マンゴーが安く簡単に手に入る南国つつうのは、私にとっ

て南国以上の天国なのである。当然のように南国タイにて食べるマンゴーを楽しみにしていた。タイで多くの人に好んで食べられているマンゴーは、日本で知られ食されているあのオレンジ色の“マンゴー”ではない……ということも知らずに。



私を撃沈させた緑マンゴーと辛いタレ



マンゴータンゴにて元気復活!

最近、日本でもやっとブームがちょいちょい始まりましたね、マンゴー。常夏の果物。ワンタムアで、あるお宅の庭先に見えるマンゴーの木に興奮する私を見て、私の大好物がマンゴーだと知った村の先生が、ある日、こどもたちと外で遊んでいた私に「れなー!家に帰ってごらん!マンゴー食べてるから!」と教えてくれた。私は家にダッシュ!村長の家に戻ると、家の前の憩いの場でおばちゃんたちが白くて緑色の物を皿にのせていた。横には塩の皿と辛そうなソースが入った皿がある。ん?「え?これマンゴー?!」と聞くと、うなずくではないか。食べたと同時に私が「プワァ〜」と言って顔をくしゃくしゃにすると、おばちゃんたちは大きな声で笑った。タイでの最初のマンゴーに私は傷つけられた。(私は本当に、もう、食べ物に左右されすぎ。)

タイ人は、熟す前の白っぽいグリーンマンゴーに、塩や辛くて酸っぱい「スパイスダレ」をつけて食べる。(生ハム&メロンの感覚なのか?)タイ人の友人らは、

私が大好きなオレンジ色に熟したマンゴーではなく、熟す前の酸っぱくて硬いグリーンマンゴーを好んで食べる。一方、フィリピン人の友人たちは、熟したマンゴーとグリーンマンゴー(フィリピン人はグリーンマンゴーを塩につけてパリパリ食べる)、どちらが好きか二分される場所である。グリーンマンゴーは料理にも使われる。タイのスーパーで買ったマンゴーが全部甘くなくて酸っぱかった。ショック!マンゴーが好物の私は意気消沈。悲しくて悲しくて仕方がなかったことをタイ人の友達に伝えると、「この国をたいていの人はグリーンマンゴーや、れなが買ったような熟す前の黄色いマンゴーが好きだからね」と言われた。私が行ったバンコクのアイスクリーム屋さんにはグリーンマンゴーのアイスがあった。私を待っていたはずの熟したオレンジ色のマンゴーはどこ?帰国後、「タイでは完全に期待を裏切られたよ」と話す私に、フィリピン人の友達は「だからタイのマンゴーなんて駄目なんだよ!フィリピンがやっぱりナンバーワンでしょ!」と嬉しそうに語った。

マンゴー好きの私がタイに行く前からタイ人の友達に話を聞いていた「Mango Tango」。店のメニューすべてがマンゴーなのだ!私のためにあるような店だ!ここには熟したマンゴーがバッチ



これがバロッド!



マックよりも市民権を
ゲットしているわれらがジョリビー



友人宅にて。右に噂の青い液体が見える。真ん中奥にあるのがパンシットビール。お皿の上には「飯とおかずをのせ、魚もスプーンとフォークで食べるのがフィリピン式」

リ置いてある。是非皆さんにも行ってみてほしい。タイには新鮮な果物がたくさんあって、ジュースやスムージーなどもおいしい。日本では南国の果物をこんな目にするにはできない。このお店ではマンゴー&ミルク、マンゴープリン、マンゴーアイスとマンゴーのセットを食べた。

☆★衝撃的な食べ物

初めてフィリピンに行った時に、話には聞いていたが一番衝撃的だったのが、Balod(バロッド)との「対面」である。フィリピンで誰かに会う度に「もうバロッド食べた？」と聞かれるので気になっていた。そんなにフィリピン人がお勧めするものなの？的な好奇心が。友人が夜、家の前のスタンドに行き、数分後に卵を三つ持って帰ってきた。「これを割ってみて」と言われ、「うわ〜」みたいな感じで、これから起こることを見たくないような顔をしている友達を奇妙に思いながら割っていくと、「プリンツ!」……ん?

……何かの足……みたいなものが出てきた。はい、想像力を働かせてえ。バロッドとは、孵化する直前のアヒルの赤ちゃんをゆでたもの。ぴよぴよ。一つ約20円のこのバロッドで相当の栄養とカロリーを摂取できる。このバロッド、「大好きで汁がうまい!」というフィリピン人もいれば、先に登場した友人のように、私には食べさせようとするくせに自分では絶対に食べないフィリピン人もいる。

☆☆おももしろいもの・かわいいものヨ
フィリピン

フィリピンにはいかにも体に悪そうなものがたくさんあって楽しい。こどもが喜ぶ物がたくさんある国なのだ。Bingo Passという炭酸飲料がある。日本で黒い色で売られているものと同じ味なのだが、色が青い! フィリピンでは炭酸ばかりが売られていて、小さな店やスタンドではペットボトルの水や紅茶などを手に入れることが難しかった。だがしばらくあの暑さの中で過ごすうちに、誰もが炭酸のジュースを欲するのわかるようになった。(ペルーにはインカ帝国の名に由来した、その名もインカコーラという飲み物がある。色は見事な黄色! こわっ!)

フィリピンでマクドナルドと人気を二分する、いや、フィリピンのファストフードと言

えばJollibeeに軍配が上がるだろう。マスコットのハチがかわいい。道路を走っていると大きな看板をよく目にする。そしてうったえかけるキャッチフレーズ、"Bee happy! Jollibee!"(ジョリビーでハッピー!) フィリピンの料理は甘いものが多いが、スパゲッティも甘い。マクドナルドにもスパゲッティはあるが、Jollibeeのスパゲッティの方が甘い。なぜに甘いのだろう……。フィリピンのファストフード店ならではのメニューはスパゲッティだけでない。フライドチキンが白飯とセットというのもフィリピンのお決まりだ。

フィリピンではサンドイッチも甘い。その家庭も作るサンドイッチが似ている。それはなんて呼ぼうか、えっと、“チキマンマヨネーズピクルスサンドイッチ”。字だけ見るとどうして甘いかわからない。けれども、めちゃ甘いのだ。あたしや、日本人だからね。みんなでお出かける日、朝霧の中これを暗い車内で食べなさいと言われたときにやあ、これ食べるなら空気を食べたいと思ったね。味は予想通り、ミラクルミラクル☆簡単に言うとおく、日本人は絶対NGな味っす。外人が初めて納豆食べる時もこんな感じなのかなあ。

田村怜奈(たむら・れな)
大学院生、旅する物書き。「私をしょーもない奴だと思っその時間を、どうか世界平和への最短の道を考えるためにつかってください。」

インド・ネパール・アフガニスタン・バリなどなどからはるばるやってきた衣料品・織物・アクセサリ・楽器・CD・DVD……が皆様をお待ちしております



<http://www.harubaruya.com/>

180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 1-8-3 コスモビル 2階

Phone & Fax. 0422-21-4790

渋谷アマリタ Phone & Fax. 03-3461-6563

吉祥寺別館 Phone & Fax 0422-22-2433

☆はるばる屋通信☆

クリスマスプレゼントに!!
シルバーリングはいかがですか?

★軽井沢店は、閉店いたしました。
来年もよろしくお願いたします!

吉祥寺別館は、年内無休です。

ベリーダンス、インド舞踊のイベントに
商品を持って参加いたします。ご連絡ください。

ネットでのお買物もお楽しみください!